

平成 23 年度実証運行結果の中間報告（利用実績）

（運行開始から平成 24 年 2 月までの状況）

1. 乗車人員及び運賃収入状況

●門前線

1 日あたり乗車人員 91 人

1 日あたり運賃収入 13,100 円

●西畑線・萩原線

1 日あたり乗車人員 20 人

1 日あたり運賃収入 3,800 円

2. 平成 23 年度収支見込

●門前線

運賃等収入（見込）1,376 千円/経費（見込）3,138 千円=43.8%

よって、市負担割合は 56.2%（見込）となる。

●西畑線・萩原線

運賃等収入（見込）909 千円/経費（見込）3,256 千円=27.9%

よって、市の負担割合（見込）は、72.1%となる。

（半年分の国庫補助金 500 千円を年度内に収入するとして）

3. ご利用の傾向

●門前線

運行開始時点から、1 日平均約 90 人のご利用がある。

生駒駅からの乗車人員と他の停留所の乗車人員の比率は、69 : 31 となっている。（帰りのご利用が多い）

朝の 1 ～ 3 便（生駒駅 8:30, 9:00, 9:30 発）の利用者がやや少ないものの、各便まんべんなくご乗車いただいている。

運賃収入における、現金と回数券との比率は、42 : 58 となっている。（継続的なご利用が多い）

高齢者だけではなく、買い物、通勤の利用もある。

満席により、乗車いただけなかった例が数件ある。（9 便（生駒駅 14:35 発、11 便、13 便。大部分が生駒駅。）

●西畑線・萩原線

運行開始時点は、1 日平均 23 人のご利用があったが、その後減少傾向にある。（2 月は 1 日平均 18 人）

せせらぎ～南生駒駅間からの乗車人員と他の停留所からの乗車人員の比率は、48：52 となっている。（行き、帰り、同等のご利用がある。）

西畑線の 4 便（暗峠 12:00 発）、6 便（暗峠 15:25 発）のご利用が少ない（1 日あたり 1.1 人）

萩原線のご利用が少ない（1 便あたり 1.3 人）。

高齢者だけではなく、通学利用もある。また、ハイキング等観光利用の例もある。

運賃収入における、現金と回数券との比率は、61：39 となっている。（観光等随時の利用が門前線に比べ多い。）

満席により、乗車いただけなかった例はほとんどない。

4. 利用促進に向けた方策

【運行開始前】

- ・自治会による集会等でのご利用の呼びかけ
- ・運行開始記事を 10 月 1 日付け広報紙いこまに掲載
- ・沿線自治会への時刻表の配布
- ・回数券の販売

【運行開始後】

- ・自治会による集会等でのご利用の呼びかけ
- ・市ホームページに時刻表や路線図を掲載
- ・公共施設等での時刻表の配布
- ・広告入り時刻表の作成・配布
- ・別途チラシの配布（青山台自治会で試行）

【今後】

- ・自治会によるご利用のよびかけの継続
- ・広報いこま、市ホームページへの掲載（利用状況、収支の見込 他）
- ・南地区については、沿線飲食店とも協力し利用を案内する。

(参考) 光陽台線の状況 (平成 24 年 2 月までの状況)

(平成 23 年 11 月 1 日から、運賃を大人 150 円 (旧運賃 100 円) に改定)

利用状況・運賃収入の変化

- 1 日あたりの利用人員 運賃改定前 216 人→改定後 160 人
(前年同時期の約 12.5%減)
- 1 日あたりの運賃収入 運賃改定前 20,000 円→改定後 22,300 円
(前年同時期の約 26%増)
- 年度利用人員 平成 22 年度 : 51,081 人→平成 23 年度 : 47,340 人 (見込)
- 年度運賃収入 平成 22 年度 : 4,824 千円→平成 23 年度 5,256 千円 (見込)
- 運行経常経費に対する市の負担割合

平成 22 年度 :

運賃等収入 4,824 千円 / 経費 10,450 千円 = 46.2%

よって、市の負担割合は 53.8%となる。

↓

平成 23 年度 :

運賃等収入 5,256 千円 (見込) / 経費 10,687 千円 (見込) = 49.2%

よって、市の負担割合は 50.8% (見込) となる。